

# 湯婆ゆたんぼの暁のひとはだめでたけれ

藤田湘子

電気毛布に慣れると湯たんぽや足温器など必要としなくなつた。また、寝具がベッドになり、重い綿布団から羽毛布団に変わったのもその要因のひとつだろう。

昭和一桁世代の人達にとって「湯婆」とは、子供時代に母が用意してくれた陶器製の湯たんぽを懐かしく思つたり、あるいは戦後の若かりし頃に利用したブリキ製の楕円形のものだろう。中に熱湯を入れて暖を取つた。

寒暁であつても、毛布の中でまだ人肌のぬくみをたたえる湯たんぽへの信頼と挨拶の一句と解釈した。

「めでたけれ」は、文語形容詞「めでたし」の已然形。ここでは、「人肌こそ」の「こそ」が省略されている。

七種のはじめの芹ぞめでたけれ 高野素十

1998年 (H10作) 第十句集『神楽』 鑑賞・轍郁摩